

東京都スポーツ振興審議会（第26期第10回） 審議資料

スポーツ実施率70%達成に向けた女性・子供向け施策の方向性について

- 東京都のスポーツ振興施策におけるターゲット層別の課題と方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1
- <分析(女性)>性別・世代別のスポーツ実施率・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料2-1
- <分析(女性)>20代、30代の女性の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料2-2
- <分析(女性)>スポーツをしなかった理由・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料2-3
- 20代、30代の女性がスポーツを実施しない理由から考える課題と方向性・・・・・・・・ 資料2-4
- <分析(子供)>スポーツが好き・嫌いな児童・生徒の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料3-1
- 子供のスポーツ嫌いを減らすための方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料3-2
- 東京都スポーツ振興審議会（第26期）答申概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 参考資料1
- 都が実施するスポーツイベントの参加者分析・・・・・・・・・・・・・・・・ 参考資料2
- 都立スポーツ施設におけるジュニア・働き盛り・女性を対象とした事業・・・・・・・・ 参考資料3

東京都のスポーツ振興施策におけるターゲット層別の課題と方向性

資料 1

女性

課 題

- ◆女性の全年代においてスポーツ実施率は低下傾向
- ◆20・30歳代女性は仕事、家事・育児を理由にスポーツを実施しない割合が大きい
- ◆20・30歳代女性はスポーツ・運動が好きでない割合が全体平均を大きく上回る

【東京都スポーツ推進総合計画 113ページ より】

○達成指標【20・30歳代女性のスポーツ実施率】
42.0%（現状）⇒50%（2020年）⇒55%（2024年度）

方向性

- 女性が生活と仕事の調和を取れる仕組みづくりを進めるとともに、一日の大半を過ごす職場や子育て環境の中で気軽にスポーツに取り組める環境を整備

【東京都スポーツ推進総合計画 113ページ より】

幼児・子供

課 題

- ◆スポーツをする子供・しない子供の二極化、全体的な実施頻度の減少
- ◆学年が上がるに連れて、スポーツが嫌いな児童・生徒が増加する傾向。特に女子はその割合が高い
- ◆家庭、地域、幼稚園・保育所・認定こども園等と連携し、子供が体を動かす時間の確保や環境の整備

【東京都スポーツ推進総合計画 66、107ページ より】

○達成指標
【スポーツが「嫌い」「やや嫌い」と回答する中学2年生の割合】
男子11.8%・女子21.8%（現状）⇒男子5%・女子10%（2024年度）

方向性

- 児童・生徒の運動量が十分確保されるよう、様々な取組を進めるとともに、運動が苦手だったり、好きでない児童・生徒に対する優れた実践等を広く普及
- 生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣、意欲、能力を育成するため、子供や親子が楽しめるスポーツを体験する機会の提供、環境の整備及び指導者の育成

【東京都スポーツ推進総合計画 66、107ページ より】

働き盛り世代

課 題

- ◆20～40歳代のいわゆる「働き盛り世代」のスポーツ実施率は全体平均を下回る
- ◆「健康経営」に取り組む企業等との連携
- ◆通勤・休憩時間等を活用したスポーツ活動の促進
- ◆官民が連携したスポーツ気運の醸成

【東京都スポーツ推進総合計画 140ページ より】

方向性

- 職場等におけるスポーツへの意欲を高めるため、企業等へスポーツ活動を働きかけるとともに、企業等の取組を積極的に発信して気運を醸成
- スポーツによる健康等への効用・効果を広く普及させ、スポーツへの関心を喚起

【東京都スポーツ推進総合計画 140ページ より】

高齢者

課 題

- ◆医療費抑制や介護予防の視点からの高齢者スポーツの振興
- ◆高齢者個人の体力に応じて、無理なくスポーツを楽しむための工夫
- ◆スポーツによる社会参加機会の創出

【東京都スポーツ推進総合計画 109ページ より】

方向性

- 高齢者の健康増進や地域での仲間づくり活動を支えていくため、高齢者がスポーツに親しみ、世代を越えてスポーツを楽しむ機会を提供

【東京都スポーツ推進総合計画 109ページ より】



【基本理念】

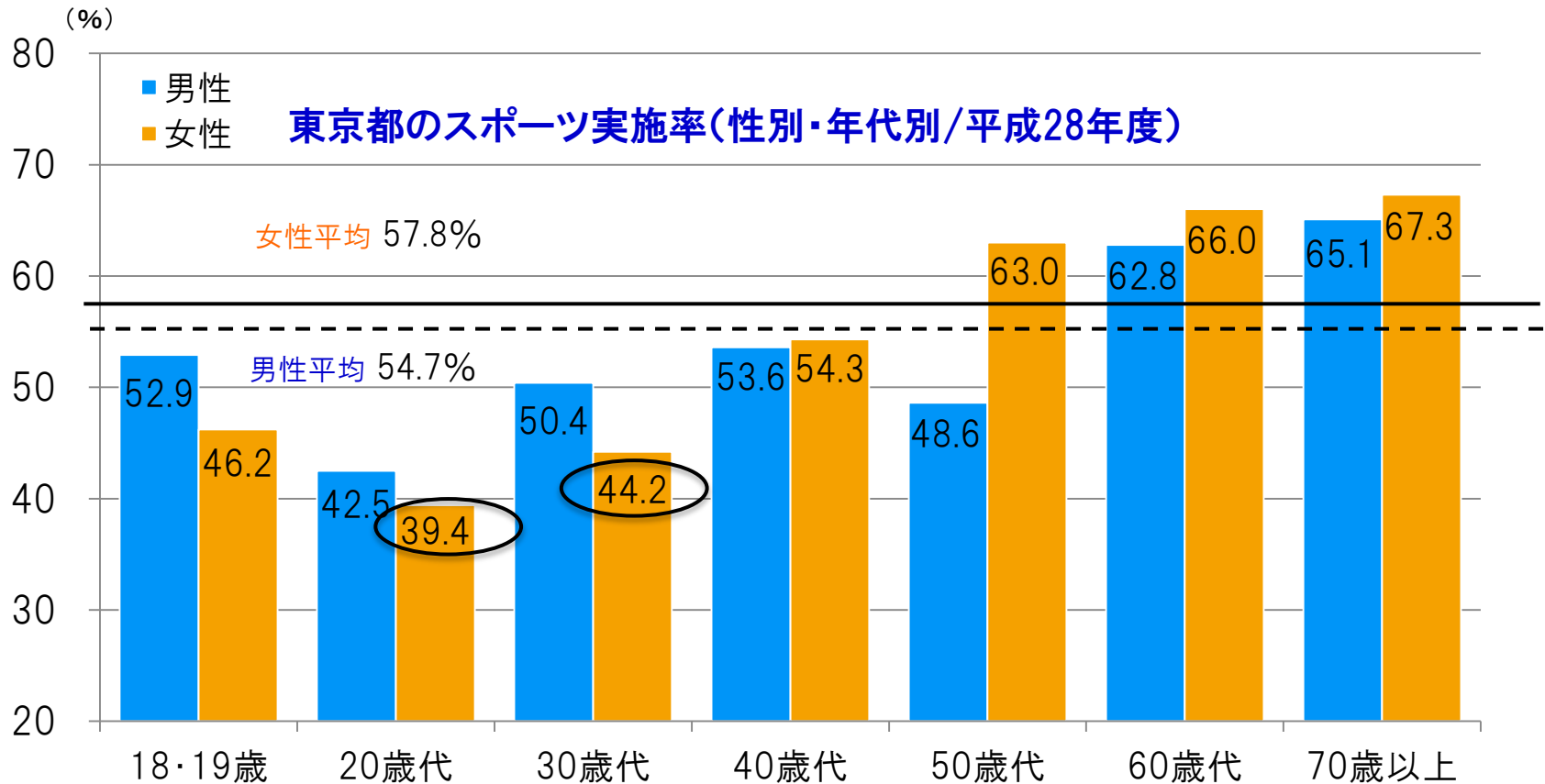
スポーツの力で東京の未来を創る



<分析(女性)>

性別・世代別のスポーツ実施率

- 女性のスポーツ実施率の平均は男性よりも高いが、20～30代女性の実施率は全区分の中で最も低い水準
- 60代以上の高齢者層のスポーツ実施率は相対的に高い



出典 生活文化局「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成29年1月)、住民基本台帳による東京都の人口(平成28年1月)より作成

<分析(女性)> 20代、30代の女性の特徴

女性のライフスタイルは多様化

ワーキングウーマン、ワーキングマザーで8割以上を占める

●就業率(25～44歳の女性)

全国:71.6%(H27年) ← 56.5%(S60年)

出典:総務省「労働力調査」

●初婚年齢

全国:29.4歳(H27年) ← 25.5歳(S60年)

東京:30.5歳(H27年)

出典:厚生労働省「人口動態統計」

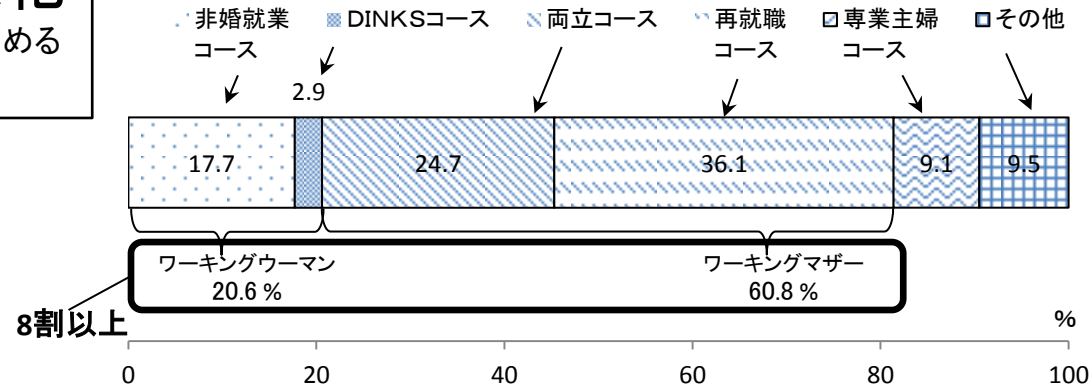
●第一子出産年齢

全国:30.7歳(H27年) ← 26.7歳(S60年)

東京:32.2歳(H27年)

出典:厚生労働省「人口動態統計」

女性の予定ライフコース(平成22年)

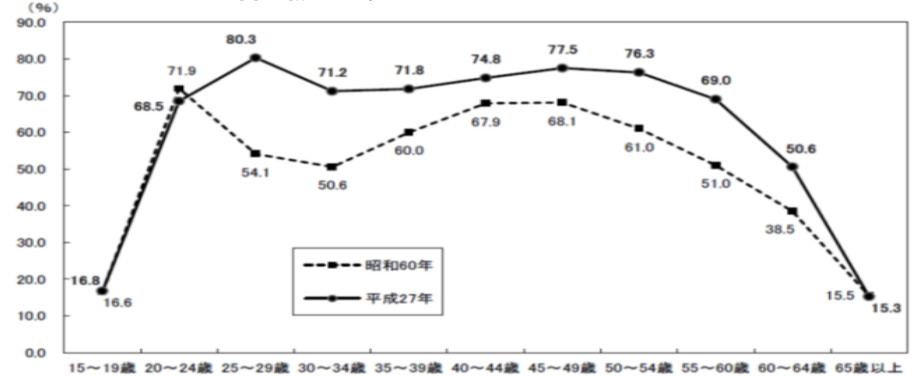


- ・非婚就業コース: 結婚せず、仕事を一生続ける
- ・DINKSコース: 結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
- ・両立コース: 結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
- ・再就職コース: 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ・専業主婦コース: 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない

出典:内閣府男女共同参画白書(平成25年度)を基により作成

国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査 独身者調査の結果概要」から、35歳未満の回答者を抽出

女性の年齢階級別労働力率



出典:総務省「労働力調査」(昭和60年、平成27年)

<分析(女性)> スポーツを実施しなかった理由

- 実施率が低い20～30代の女性が、この一年間にスポーツを実施しなかった理由は、「忙しいから」、「機会がないから」、「好きでないから」との回答が多い
- スポーツを実施しなかった理由として、男女ともに30～50代は、仕事や育児等により「忙しいから」が多数

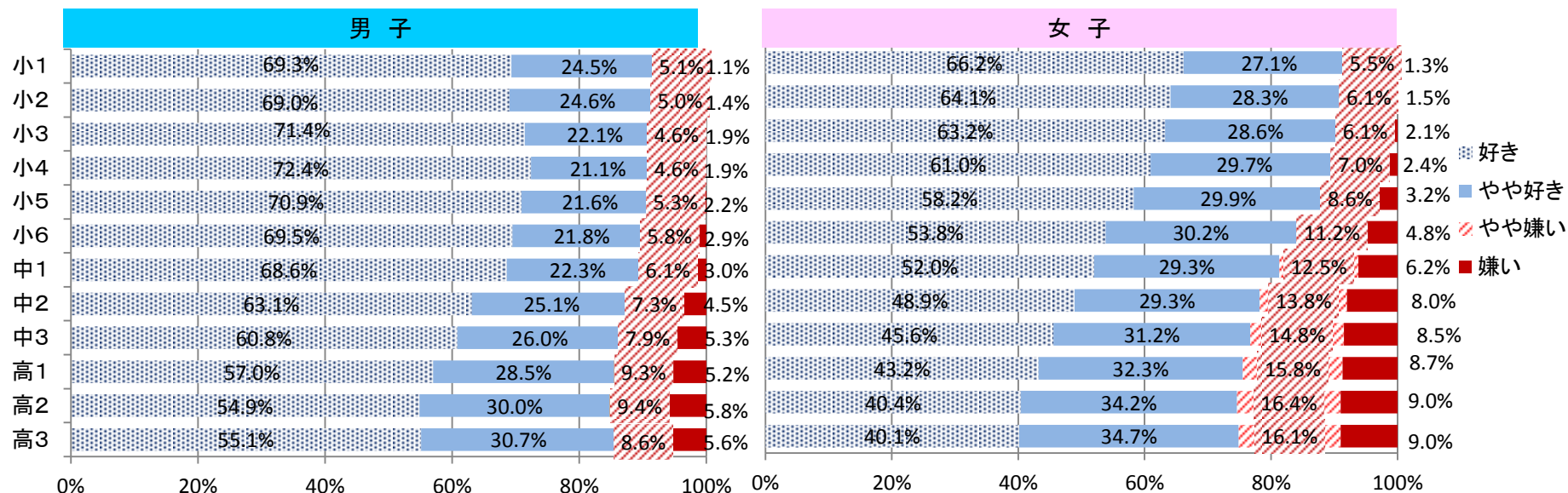
性別	年齢層	未実施 (週1回未満)	実施しなかった理由(主なもの)					
			忙しいから	年をとったから	お金がかかるから	機会がないから	好きでないから	理由はない
男性	20代	55.1%	30.8%	-	-	23.1%	30.8%	30.8%
	30代	48.7%	71.4%	-	-	35.7%	-	14.3%
	40代	44.6%	66.7%	-	11.1%	22.2%	16.7%	16.7%
	50代	49.1%	54.3%	8.6%	2.9%	31.4%	8.6%	14.3%
	60代	36.5%	30.4%	13.0%	-	21.7%	8.7%	21.7%
	70歳以上	31.5%	17.4%	52.2%	-	13.0%	8.7%	8.7%
女性	20代	56.4%	53.8%	-	7.7%	46.2%	23.1%	-
	30代	49.5%	73.7%	-	5.3%	21.1%	26.3%	-
	40代	43.8%	50.0%	5.0%	-	30.0%	15.0%	10.0%
	50代	35.4%	66.7%	9.5%	19.0%	23.8%	19.0%	14.3%
	60代	31.4%	39.3%	7.1%	3.6%	14.3%	-	14.3%
	70歳以上	30.1%	13.6%	54.5%	2.3%	6.8%	4.5%	9.1%

20代、30代の女性がスポーツを実施しない理由から考える課題と方向性

スポーツを実施しない理由	課題	方向性	(参考)都が実施している事業
忙しいから	仕事、家事、育児等が忙しく、スポーツをするまとまった時間がとれない	・職場や日常生活でスポーツする機会の提供 ・スポーツの範囲について、健康を目的に行われる身体活動、遊びや楽しみを目的とした身体活動まで幅広く捉える意識改革	・企業と連携した施策(東京都スポーツ推進企業、オフィスDEエクササイズなど) ・ラジオ体操プロジェクト ・スポーツを通じた健康増進に関する普及啓発広報 (「スポーツの範囲」の提示、都民のライフスタイルに合わせた身体活動目標値の提示など)
機会がないから	・イベントの中で、女性が参加したくなるものが少ない ・身近な地域でスポーツを楽しめる機会が少ない	・各種イベントでの女性が参加したくなる企画(ヨガ体験、「スイーツ」をテーマとしたスポーツイベントなど)やファミリー向け企画の充実 ・学校や地域スポーツクラブ等と連携し、身近な場でスポーツが楽しめる機会を提供	・各種イベント (TOKYOウォーク、スポーツ博覧会、味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン等) ・ファミリースポーツ促進事業 (子どもと共に楽しめるレクリエーションやニュースポーツ等のスポーツ交流会等の事業を支援) ・地域スポーツクラブ設立・育成支援 ・都立スポーツ施設におけるスポーツ振興事業及び自主事業
好きでないから	・スポーツに対する苦手意識 ・スポーツを楽しむ経験の欠如	・スポーツの魅力に触れるきっかけの拡大	・各種イベント (TOKYOウォーク、スポーツ博覧会、味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン等) ・ニュースポーツ裾野拡大に向けた指導者の育成

<分析(子供)> スポーツが好き・嫌いな児童・生徒の状況

- 学年が上がるに連れて、スポーツが嫌いな児童・生徒が増加する傾向。特に女子はその割合が高い。



(出典) アクティブプラン to 2020(平成28年1月、東京都教育委員会)

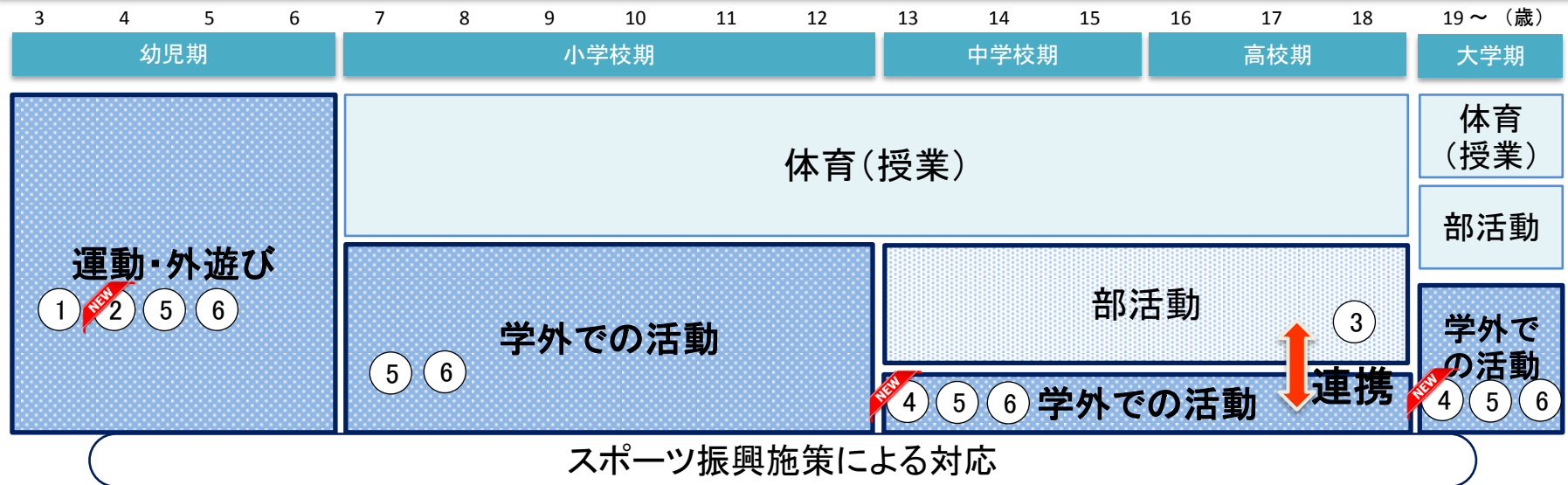
子供のスポーツ嫌いに関する有識者の意見等

- 学校の体育授業では現状は「より早く、高く、遠く」へ機能する身体が評価され、運動が苦手な児童・生徒はスポーツ嫌いになっている可能性がある。(H29.8.4 スポーツを通じた女性の活躍促進会議(第1回:スポーツ庁))
- スポーツが好きな子供ほど、1週間の総運動時間が多いが、子供のスポーツや外遊びに不可欠な要素である「時間・空間・仲間」が減少し、子供が運動をしなくなっている。(H29.5.22 東京都スポーツ振興審議会(第4回))
- 自分が運動をしている時に、周りからどのような目で見られているかを恐れてスポーツへの一歩を踏み出せない女性が多い。(INSHIGHT第1・第2合併号(2016年9月発行(独)日本スポーツ振興センター))

(出典) 「見える化改革報告書「スポーツ振興」」(平成30年1月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局)

子供のスポーツ嫌いを減らすための方向性

- 子供のスポーツ嫌いを減らすため、学校や地域スポーツクラブ等との連携を深めるなど、ライフステージを踏まえたスポーツ振興施策を推進することが必要



子供のスポーツ嫌いを減らすためのスポーツ振興施策の方向性

- ① 幼児期に運動・外遊びをする機会を創出するため、親子で楽しむスポーツイベント等を展開
- NEW ② 幼稚園・保育所・認定こども園等と連携し、幼児の体を動かす時間や環境の整備を促進
- ③ 学校と連携し、子供がやりたいスポーツを実施できるよう、外部人材を活用する等により、部活動を支援
- NEW ④ 女性特有の身体機能やライフスタイル、意識等に配慮した、女性のスポーツ振興の取組を展開
- ⑤ 学外でスポーツを実施するための受け皿として、地域スポーツクラブの育成・活用を促進
- ⑥ 子供が楽しんで体を動かすことができるよう、レクリエーション性の高いスポーツを指導できる人材の育成

東京都スポーツ振興審議会（第26期）答申 概要

政策目標1「スポーツを通じた健康長寿の達成」について

答申内容（要約）	審議会委員からの個別意見（要約）
◆健康を維持増進していくため、65歳以上の高齢者はもとより、若年期からスポーツをする習慣を身に付ける ◆スポーツへの関心を高めるため、スポーツがもたらす効果・効用を広く知ってもらう ◆スポーツ習慣の定着化に向けて、スポーツを実施する機会と場の創出、スポーツをしようと思う気運の醸成 ◆産学公の連携や都民との連携によるスポーツ振興の取組を促進 ◆スポーツを「する」だけでなく、「みる」、「支える」の観点から積極的に施策展開	◆スポーツイベント開催に当たって、これまでスポーツを実施していない人への訴求効果を検討することが必要であり、スポーツ実施率の向上へ、女性や若年者、幼児・子供など、企画・立案の段階においてターゲットを明確化 ◆スポーツの場の創出について、公立スポーツ施設開館時間等の見直し、公的施設（公園や学校施設等）のスポーツの場としての活用、企業・大学等有する施設等の活用等の仕組みを構築 ◆東京2020大会のボランティアが社会文化システムとして定着するよう一層の検討 ◆アスリートが競技生活引退後、知識や経験を生かした活躍ができる取組の検討

政策目標2「スポーツを通じた共生社会の実現」について

答申内容（要約）	審議会委員からの個別意見（要約）
◆障害者スポーツの振興だけでなく、高齢者や子供、女性等に配慮する視点持ったスポーツ振興 ◆都は様々な障害者スポーツの先駆的取組を進めてきたが、女性や子供等に焦点を当てたスポーツ振興の取組があまりない、障害者スポーツ施策を体力が低下した高齢者や子供、女性等のスポーツ振興に応用・活用 ◆共生社会の実現のためには、都民の意識改革と行動変容の双方を促すことが必要	◆体力や身体能力等に応じスポーツを楽しむため、ローカルルールや道具等を個々に応じて「つくる」という視点を取り込んだ障害者スポーツや高齢者スポーツの振興 ◆スポーツ実施率の低い20～30歳代女性に対し、価値観やライフスタイルに合わせたスポーツへの動機づけが重要、美容効果やファッション性等、女性の興味や意識を考慮した効果的な施策を検討 ◆身体を動かすというスポーツ本来の楽しみを知り、スポーツが好きな幼児・子供を増やすために、保護者等の理解促進、ともにスポーツを楽しむ取組、幼稚園や保育所、認定こども園等との連携

政策目標3「スポーツを通じた地域・経済の活性化」について

答申内容（要約）	審議会委員からの個別意見（要約）
◆高齢者の単独世帯の増加が予想される中、スポーツを通じて更なるコミュニティ形成を図ることが重要 ◆スポーツに参加する人を増やしていくだけでなく、自ら積極的にスポーツへ参画してもらうよう、「する・みる・支える」の観点から重層的に施策展開 ◆スポーツを発展させるためには、スポーツで収益をあげ、スポーツに還元する好循環を構築することが重要	◆地域の子供たちのスポーツ環境を一層充実させるため、学校体育施設を活動の拠点とするクラブにあっては学校の運動部活動と連携に係る新たな取組 ◆地域のスポーツ活動活性化のため、スポーツに関心のない地域住民へアプローチが必要、スポーツ・レクリエーション指導者等の人材育成と積極的な活用を検討 ◆企業等におけるスポーツ気運の醸成に当たって、健康経営の考え方を普及・浸透させることが重要、企業等と連携した取組をより一層促進

都が実施する主なスポーツイベントの参加者分析

29年度 参加者アンケート集計結果(抜粋)

区 分		スポーツ博覧会	TOKYOウオーク	味スタ6時間 耐久リレーマラソン
事業目的等		スポーツの気運高まる体育の日にかけ、区部・多摩2か所で、都民の誰もが気軽に参加できる多彩なプログラム等スポーツの機会を提供	普段スポーツに触れる機会の少ない都民の健康づくり等を目的として実施。 親子などで歩ける「こどもとウォーク」を3大会で実施	2人から10人までのチームで参加するリレーマラソン大会。家族や友人、職場の仲間同士で参加できるとともに、子どもと保護者が一緒に参加できるコースも設置
実施時期		10月7日(土)、8日(日)	6月～12月 (5回)	11月4日(土)
会 場		駒沢オリンピック公園 井の頭恩賜公園 西園	区部、多摩	味の素スタジアム
参加人数		241,705人	20,069人	10,337人
年 齢	60代以上	3.9%	56.1%	2.3%
	20～50代	53.0%	42.7%	93.4%
	10代以下	41.4%	0.8%	4.3%
男 女 別	男性	46.2%	62.9%	74.0%
	女性	48.2%	35.6%	26.0%
同 伴 者	一人	4.0%	47.2%	—
	家族	85.3%	28.1%	9.0%
	友人	11.0%	20.4%	8.0%
	その他	3.3%	3.9%	83.0%

【参考】
スポーツ博覧会に
おける女性参加者
年齢構成

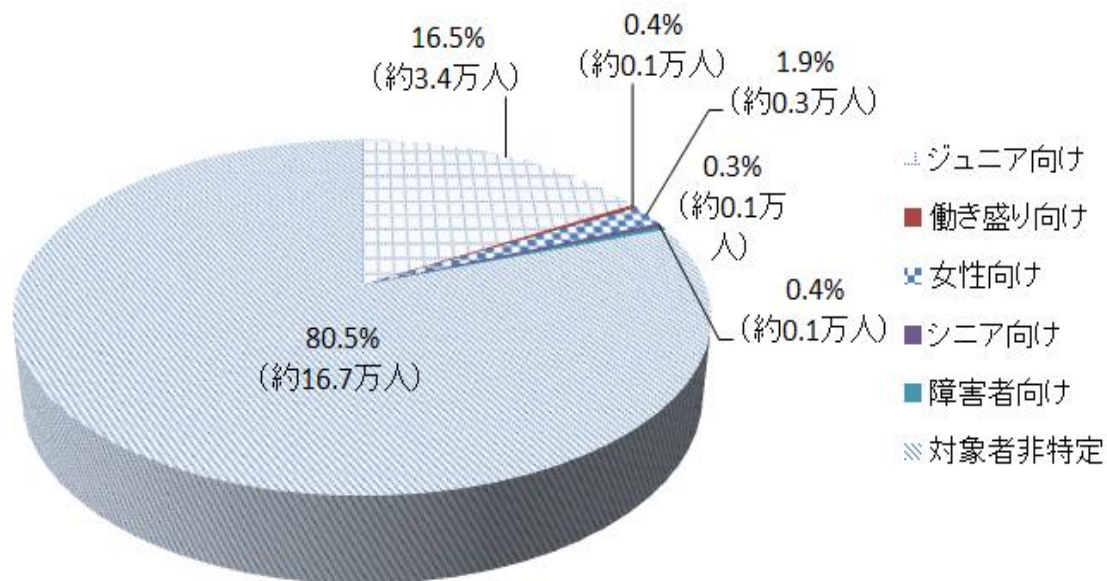
・80代： 0.3%
・70代： 1.0%
・60代： 2.8%
・50代： 3.5%
・40代：26.9%
・30代：25.8%
・20代： 4.2%
・10代：35.5%
計 100.0%

* 無回答や無効の割合を除いているため、合計しても100%にならない場合がある。

都立スポーツ施設におけるジュニア・働き盛り・女性向け事業（平成29年度）

1 都立スポーツ施設における対象者向け事業における参加者数（平成29年度）

	参加者数	割合
ジュニア向け	3.4万人	16.5%
働き盛り向け	0.1万人	0.4%
女性向け	0.3万人	1.9%
シニア向け	0.1万人	0.4%
障害者向け	0.1万人	0.3%
対象者非特定	16.7万人	80.5%
計	20.7万人	100%



2 主な事業例（平成29年度）

	施設名	事業名	参加者数
ジュニア向け	駒沢オリンピック公園総合運動場	駒沢ジュニアサッカースクール	9,573人
	東京辰巳国際水泳場	こども水泳スクール	7,333人
働き盛り向け	駒沢オリンピック公園総合運動場	親子で楽しむフットサル	110人
	東京体育館	スポーツ習慣化実践セミナー	94人
女性向け	駒沢オリンピック公園総合運動場	バレーボールコミュニティ	2,150人
	東京武道館	東京武道館女性バレーボール交流会	449人